

## ●第8回中米カリブ日本語教育セミナー

(2016年8月25日, コスタリカ: エレディア市)

報告者: 西浦久子 (ナショナル大学, 主催者)

2016年8月25日～28日にエレディア市にて第8回中米カリブ日本語教育セミナーが「中米カリブ地域における日本語能力及び日本語教育能力向上のため取り組むべきこと」をテーマに開催され、15か国から68名参加した。8年前、現地日本語教師や国際協力機構(JICA)ボランティアからなる有志のメンバーが第1回中米カリブ日本語教育セミナーを開催した。数年後「中米カリブ日本語教育ネットワーク (Red Centroamericana y del Caribe para la enseñanza del idioma Japonés: RCCJ)」が立ち上げられた。「中米カリブ日本語教育の発展」を理念として、より良い教授法の研究をしたり、各国が持つ課題の解決に取り組んだりしている。毎年セミナーで各国の活動成果発表、勉強会、意見交換などを行っている。

本セミナー前日はRCCJミーティングⅠとして、ノンネイティブ日本語教師に対して実施した日本語テスト(J-CAT)の結果、国際交流基金の長期研修に参加した教師の発表、一昨年コスタリカで行われた中米初の日本語能力試験実施状況が報告された。学習者により日本語で各国を紹介するビデオコンテスト実施の結果も報告された。

セミナー1日目はメキシコ日本文化センターの蟻末アドバイザーによる「中米カリブで日本語教育を考える」と題する基調講演とJICA吉田技術顧問による「中米カリブの日本語を探して」と題する特別講演が行われた。元コスタリカ青年海外協力隊員特別ゲストより「中米カリブ日本語教育ネットワークの歴史と現状」に関する講演、元ニカラグア隊員より「ニカラグア日本語教育の歴史を探る」と題する講演が行われた。各国の研究テーマをもとにグループに分かれワークショップを行った。例えば「ジャマイカにおけるチームティーチングの現状と問題点」。夜、大使公邸にて歓迎レセプションが行われ参加者と交流した。

2日目は教材作成・材料収集のため現地視察し、ビデオ教材を作成、発表、共有した。夜、RCCJ代表者会議、JICAボランティアミーティングを行った。

3日目は1日目に行われた分科会の成果を全体で共有した。具体的、実践的な指導方法や効果的な教材などについて情報交換した。パネルディスカッションではパネラーから中南米各国の共通の課題、ネットワーク形成の必要性が提示された。RCCJミーティングⅡでは2017年度セミナーはニカラグアで実施すること、日本語コンテストはドミニカ共和国が運営しオンラインで実施すること、5か年計画の具体策、担当国などが承認された。

セミナーの成果は過去最多の参加国・参加者数となった、新しい国や地域との繋がりが生まれ、各国の取り組み等の情報の共有ができた、ノンネイティブの日本語教師の日本語能力の向上や各々の日本語のレベルが確認できたことなどである。今後の課題としては5か年計画の具現化のために、各国のより具体的な実施計画の作成、各国との定期的、継続的な情報共有、意見交換、運営方針の確立、セミナー内容の厳選、時間配分とそれに対する事前準備、セミナーにおける使用言語(ジャマイカ、トリニダード・トバゴ等英語圏参加者への対応)がある。